

令和6年度 小林市立須木小学校 学校運営協議会評価書

4段階評価

4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営ビジョン		「自信を持ち、夢や希望をもった、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」～「学びたい」子ども「学ばせたい」学校・家庭・地域の集う学校づくり～【テーマ やればできる！できるまでやる！パワーアップ須木小】				
項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等		自己評価	委員評価	学校運営協議会委員のコメント
知育	基礎基本の定着及び主体的に学ぶ児童の育成 【学習成果を実感し、仲間と喜び、教えあえる学びづくり】 ア 基本的学習習慣の徹底と個に応じた指導 イ 家庭学習の確立 ウ ICT機器の活用 エ キャリア教育の充実 オ 読書活動の推進	○パワーアップタイムで、学習内容の振り返りを行い、基礎基本の定着を図ることができた。 ○今年度、NINO検査を全児童行い個人の認知能力に応じた授業づくりに取り組んだことで、個に応じた指導を行うことができた。 ●今年度の研究を通して、文章を正確に読み取る力に課題があることが分かったため、次年度はその課題解決に取り組んでいきたい。	3.3 3.2	3.3 3.2	3.3 3.2	・校内研修、検証を通じて授業、指導に生かす取組において、指導者としての努力が十分評価できる。 ・教育の充実は先生と子どもの信頼関係の構築が不可欠であり、押し付ける授業ではなく、常に子ども一人一人と会話し、発表、意見を促し、ほめる授業が参観して十分評価できた。 ・知育の各項目に沿った前向きな取組は素晴らしいものである。読書、宅習、タブレット使用の習慣は保護者の協力体制が不可欠である。 ・大学、高校の受験は読解力を問われる。小学校の段階でこのことを保護者が理解しておく必要がある。学校での学習が万全と考えることなく、保護者は子どもに何ができるか考えることも大切である。
		○家庭学習の手引きをもとに、年度初めに、家庭学習の取り組み方について指導を行った。また、家庭学習の内容が偏ったものにならないように、担任がアドバイスを送ったり、よい取組ができているノートを紹介することで取組の改善を図ってきた。 ●Allドリルの内容の検討を図り、効果的なドリルの導入を検討したい。				
		○タブレットは日常的、そして効果的に活用できている。子どもたちのスキルもかなり向上している。 ●メディアコントロールの指導について、家庭と連携した取組を行っていく必要があるため、次年度は非行防止教室や家庭教育学級等でも重点的に取り組んでいきたい。				
		○「いろいろの里」の夏木政和さんをお招きし、いろいろの里を設立した経緯とその思いについて講話ををしていただき、須木のよさを伝えていこうとする強い思いと自分の目標に向かって尽力する生き方について学ぶ機会となった。 ●外部講師の話を聞いて、子どもたちが自分の将来の生き方について考える機会を次年度は更に設定していきたい。				
		○読書時間において、多読賞の紹介や読書ピングなどの取組を行なながら読書量の向上に取り組んできた。また、教師や図書委員会による読み聞かせや校内放送によるおすすめの本紹介など様々な活動を通して、活字に親しむことのできる児童を育成してきた。 ○図書館協力員と連携を図り、授業に連携する本を準備したり、時期に合わせた調べ学習コーナーを設定したりすることで、図書室の活用が図られた。 ●eライブラリーについての活用はあまり見られない状況であるため、次年度は、県が取り組んでいる「ひなた電子図書サービス」を利用していきたい。				
德育	ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 【豊かな心づくり】 ア いじめの早期発見と解消 イ 郷土愛の育成 ウ 一人一人が活躍できる場の設定	○アンケートを毎月実施し、気になる点がある児童については、聞き取りを行い、早期に対応し、サポート委員会において全職員で情報を共有した。 ○人権に関する職員研修で外部講師を招き、トランジッジンダーに関する講話をしていただき、これまでの指導を振り返るよい機会となった。 ○12月の参観日で、人権に関する参観授業を実施した。SNSの問題、SOSの出し方の授業を行い、保護者からも好評であった。 ●次年度は、保護者と一緒にメディアコントロールに関する学習をする機会を設定したい。	3.4 2.4	3.4 2.4	3.4 2.4	・人材育成は欠かせない項目であり、学校、保護者、地域住民で取り組む問題であるといえる。 ・人権について、いじめ、不登校等、子どもには難しい問題である。相手のことを思いやる、尊敬する指導が大切であり、先生との信頼関係の中で自然に学び取っていくと思える。子どもたち同士でいじめについて考える授業も効果があるといえる。 ・郷土愛の育成は、須木の自然体験、地域住民との交流、文化財巡り、挨拶、ボランティア活動等で須木を知ることが有効であり、さまざまな角度から取り組まれていることが大いに評価できる。 ・德育は学校の教育現場だけで育むことは難しく、親の倫理観にも大きく左右される。また、教員によって指導にばらつきがあるよう思える。教員のいらないところで、心配な言動がみられることがあったようで不安があった。
		○外部講師を招いて、オオムラサキに関する学習に取り組んだり、いろいろの里で体験活動に取り組んだりすることで須木の自然のよさを十分に味わうことができた。 ○夏季休業中に地域ボランティアの方の協力で、須木の文化財に関する研修を実施し、須木の歴史や文化財にふれることができ、子どもたちへの指導に生かすことができた。 ●今年度、地域の方の協力で、田植え、稻刈り体験活動を実施し、子どもたちにとっては充実した活動となつたが、田を提供してくださった個人の方の負担が大きく、地域の方との交流も十分できなかった。 ●今年度は天候に恵まれず、SUP・カヤック体験は実施できなかった。また、担当の負担も大きいので、次年度は可能な限り地域の方の協力を得ながら取り組んでいけるようにしていきたい。				
		○今年度は、「みんなで○○する日」の企画・運営をすべての学年児童に行わせることで、自主性を育ててきた。 ○5・6年生が「プロジェクト活動」と命名し、「あいさつプラスワン運動」「下級生向けのICT講座」「生き物ふれあいコーナー」など、自分たちで考えて、須木小学校のために自主的に活動する姿が見られた。 ○毎朝、校長と一緒に朝のボランティア活動に進んで参加する児童が多く見られ、特に秋から冬にかけての落ち葉掃きは、子どもたちも毎朝、一生懸命取り組んでくれた。 ●校内だけでなく、地域へ発信できる活動にも取り組んでいきたい。				
体育	健康的な生活を過ごそうとする児童の育成 【健やかなからだづくり】 ア 早寝早起きの規則正しい生活習慣 イ 体育授業の充実 ウ 運動に親しむ児童の育成 エ 保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進	○保健だより等を通じて、健康面について保護者にお知らせするようにした。全員登校については、現時点で64日（1月31日時点）である。 ○通常登校が難しい児童に対し、遅れてでも登校できるように学級担任や養護教諭、管理職とSSWが連携を密に取り合いながら登校を促してきた。 ●学校では踏み込むことのできない家庭環境に課題を抱えるご家庭に対して、福祉課などと連携を図って対応していくことも考えていきたい。	3.2 2.8	3.2 2.8	3.2 2.8	・健康管理、規則正しい生活、体育授業の充実、運動に親しむ児童の育成等、体力向上を目指した工夫が評価できる。 ・体力向上を目指すタイム走に向けた練習、縄跳び、ボール遊びに加え、外遊びの推進が効果的であるように思える。 ・歯科衛生面などの保健面は学校の検診だけでなく、保護者の責任で取り組むようことも必要である。
		○タブレットで動きのポイントやお手本の動画などを確認したり、自分の動きを動画で確認したりしながら運動に取り組むことで、主体的に学習に取り組むことができ、技能の向上につながった。 ●体力テストの結果を分析し、体力向上の取組を行っているが、小規模校の場合は個人の能力が大きく影響することから、急激に結果を向上させることは難しい。				
		○今年度も、5分間で自分の走る距離を伸ばすタイム走を実施した。児童が自分の目標に向かって主体的に取り組む姿が見られた。 ○昼休みは、教師も外で児童と一緒に遊んでいることもあり、外でサッカーやドッジボールを楽しんでいる児童が多くみられる。 ○なわとびカードを活用した縄跳び運動に取り組んできたことが、体力向上につながってきている。今後も継続していきたい。 ●柔軟性が低下している児童が多くみられる現状があるため、ストレッチ等の運動の取組を更に充実させていきたい。				
		○身体計測と各検査結果をまとめたものを、一人ずつ配布しており、一目で結果が分かるように工夫している。また、肥満傾向児童に対しては、定期的に体重を測定したり、保護者に対応を呼びかけたりしている。 ○外部講師を招いて、薬物乱用教室や非行防止教室を実施することができた。非行防止教室の中で、SNSでの被害について具体的に話していただいたことで、児童の注意喚起につながった。 ●虫歯治療を呼びかけてきたが、現時点で11名中4名が未治療の状態である。 ●次年度は、保護者も一緒に非行防止教室を実施し、保護者の意識向上につなげていきたい。				
食育	望ましい食習慣を身に付けた児童の育成 【望ましい食習慣づくり】 ア 食に対する指導の充実、食育の推進 イ 食事バランスの推進 ウ 年間2回の弁当の日と感謝集会の実施	○外部講師を招いて味覚の授業を実施した。実際に味わいながら、味覚について学ぶことを通して、食に対する関心を高めることに繋がった。 ○食事のマナーや箸の持ち方については、給食時間に直接学級担任が指導を行ってきた。 ●学級でも箸の持ち方の指導を行うが、一度身に付いたものを改善するのは、なかなか難しい。粘り強く、家庭の協力も得ながら行なっていきたい。	3.3 3.1	3.3 3.1	3.3 3.1	・食事の時の姿勢、マナーがよくない子がいる。茶碗をもって食べない、正しい箸の持ち方ができない。好き嫌いが多い等、学校ばかりでなく保護者の指導が必要である。 ・食べ物にはすべて命があり、命をいただくことに感謝する心をもつ指導を家庭、学校で教えることが子どもの将来に生かされる。 ・弁当の日を年2回ではなく回数を増やすことも必要ではないでしょうか。 ・食育は、家庭環境の影響がとても大きい。学校だけでは難しい面がある。
		○年間を通して残菜は少なく、児童も給食残食の意識が高い。 ●保健だよりを通して朝食の必要性については啓発してきたが、朝食を毎日とっていない児童が見られる。 ○今年度は、弁当の日（弁当または食事作り）を長期休業中に実施したことで、親子でふれあいながら食事づくりに取り組む家庭が多くみられた。 ○給食感謝集会を、1月に実施し、食に対する感謝の気持ちをもちを育むことができた。				
		本校の課題である一人一人の学力の定着について、今年度は、検査等を踏まながら、より具体的に指導方法を検討してきたことで、一人一人のより具体的な課題が見えてきた。次年度も同じように一人一人の課題に向き合える学習を進めながら、自分らしい生き方を実現するためのキャリア教育の推進や広い視野に立って地域を見つめていくことのできるふるさと学習を推進していくことが必要である。また、将来にわたって自分の体力や健康を意識した取り組みを進めていきたい。				
次年度の方向性についての校長所見		本校の課題である一人一人の学力の定着について、今年度は、検査等を踏まながら、より具体的に指導方法を検討してきたことで、一人一人のより具体的な課題が見えてきた。次年度も同じように一人一人の課題に向き合える学習を進めながら、自分らしい生き方を実現するためのキャリア教育の推進や広い視野に立って地域を見つめていくことのできるふるさと学習を推進していくことが必要である。また、将来にわたって自分の体力や健康を意識した取り組みを進めていきたい。				